



ふれあい 放水路

2001
(平成13年)
第88号
7月



神戸川<出雲市乙立町『わかあゆの里公園』付近>

アユの竿釣り

六月初旬、梅雨に入って間もないこの時期、全国的にアユ漁が解禁を迎えます。このアユ漁は、毎年山陰地方に本格的な梅雨の始まりを告げる風物詩ともなっており、出雲市を流れる神戸川では六月十五日に解禁日を迎えました。

アユは体長が平均二十センチ前後の回遊魚(海と川とを往復するもの)で、独特の香りを持つことから別名「香魚」とも言われ、最も一般的な川魚として人々にも親しまれています。

アユ釣りは、釣り針に餌をつけて行う釣りとは違い、生きたアユを糸につないで泳がせ、他のアユを誘い寄せて針にかけるというアユの習性をうまく利用した「友釣り」という方法が一般的に行われます。その他、神戸川では夏の終わりから秋にかけて、落ちアユを狙った「四ツ手網漁」といわれる独特の漁法も行われています。

漁解禁を迎えた神戸川には、この時期を待ちかねていた釣り人が朝早くから訪れ、アユ釣りを楽しむ姿が見られました。

平成12年度の埋蔵文化財発掘調査結果

平成12年度の埋蔵文化財発掘調査箇所は、古志本郷遺跡、長廻横穴墓群、長廻遺跡、三谷遺跡など合わせて約2.8haを調査しました。(写真提供：島根県教育委員会・出雲市教育委員会)

三谷遺跡(出雲市大津町)

古墳時代前期のものと思われる生活跡と土師器(壺・甕・高杯)などが確認されました。

出雲市内では古墳時代前期の遺跡や遺物の出土が少ないため、今後出雲平野の古墳時代を探る上で貴重な遺跡になると考えられます。



長廻横穴墓群(出雲市大津町)

横穴墓とは、古墳時代後期頃に山の斜面の岩などを掘って作ったお墓のことで、出雲市内では約180もの横穴が確認された「上塩治横穴墓群」をはじめ、多数の横穴墓が見つかっています。

今回の調査では、二つの横穴墓を調査し、穴の中には当時の人が削ったと思われる跡が残っていました。しかし、残念ながら土器などの遺物は発見されず詳しい時代背景を知り得ることはできませんでした。

◆横穴墓の様子



古志本郷遺跡(出雲市古志町)

今回の調査では、弥生時代中期～古墳時代前期のものと思われる溝跡や竪穴住居跡などの遺構が発見され、遺物として大量の土器や石器、鉄器が発掘されました。

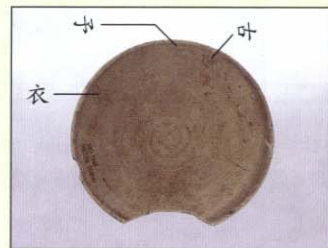
遺物として発掘されたものには、墨書土器(墨で文字が書いてある土器)といわれる奈良時代終わり頃の須恵器の他、島根県内では類例の乏しい「手あぶり形土器」が完全な形で出土し、貴重な資料の発見となりました。

*遺構:建物跡や溝跡などが手が加えたもの

*遺物:土器、石器、鉄器、木器などが手が加えたもの



▲手あぶり形土器



▲墨書土器

長廻遺跡(出雲市大津町)

昨年度の調査で弥生時代の竪穴住居跡が確認され、この辺りに集落が形成されていたことが分かりました。出雲平野の丘陵地での集落跡発見は初めてのことです。

今回の調査でも竪穴住居をはじめ山陰独特の甗形土器が出土した他、古墳時代後期の須恵器や土師器が発見されました。土師器は、赤く塗ってあるものが多数出土し、これらは祭りに使われたものだと考えられます。



▲甗形土器



▲須恵器(前列右)と赤く塗られた土師器

ふれあい放水路

通信

公民館からこんにちは
 ～高松公民館～
 明るいまちづくりと『高松七恵まつり』

ホタルサミット出雲
 開催!

高松地区の主な河川は、南境に神戸川、中央部に高瀬川と赤川、そして北部には浜山南側に新内藤川が流れています。

特に中央部を貫流する高瀬川は、十七世紀後半に松江藩の事業として大槻七兵衛によって開削されました。以後、農業用水として使用され水田耕作が盛んになり、地域の経済力が高まりました。

昔は農業用水の他に、米の運搬や防火用水等多方面に使用されてきましたが、昭和時代後半からは農業用水として使用されています。

現在、神戸川と共に赤川及び新内藤川の治水事業が進められています。これが完成しますと素晴らしい水辺環境が生まれます。

高松地区では、「明るいまちづくり」を推進しています。その一つとして高瀬川の開削事業に努力し、豊かな水田の開拓に貢献した大槻七兵衛、浜山砂丘の植林事業に尽力した井上恵助の二人の偉業を称え、七兵衛の「七」と恵助の「恵」を組み合わせて命名された『高松七恵まつり』を開催しています。

なお『高松七恵まつり』は、毎年高松小学校を会場に八月中旬に行っています。

(高松公民館 石橋 博)



高松公民館スタッフのみなさん

JR出雲市駅南口にあるビックハート出雲で、六月二日、塩治住み良いまちづくり推進協議会と塩治菅沢ぼたる保存会の主催により「ホタルサミット出雲」が開催されました。

このサミットは出雲市制施行六十周年を記念した市民自主企画事業として開催されたもので、『ホタルと共生するには』をテーマにパネルディスカッションやホタルの鑑賞会などが行われました。

また、ホタル研究を専門としている横須賀市自然人文博物館主任学芸員・大場信義理学博士による「ホタルからのメッセージ・ホタル飛び交う豊かな人里」と題した講演も行われ、ホタルを通して失われつつある自然環境の大切さを呼びかけました。

斐伊川放水路の工事实施状況



(平成13年6月以降の発注工事)

工事名	業者名	工期
斐伊川放水路 工事用道路管理工事	大和建設(株)	自 H13年 6月16日 至 H13年 9月28日
斐伊川放水路管理作業	出雲グリーン工業(株)	自 H13年 7月18日 至 H14年 1月31日



国土交通省中国地方整備局
出雲工事事務所

〒693-0023 出雲市塩治有原町5丁目1番地
 ☎(0853)21-1850
 メールアドレス E-mail: izumo@info.cgr.mlit.go.jp
 ホームページ http://www.cg.moc.go.jp/izumo/

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。
 問い合わせ先: ふれあい放水路担当
 放水路工事業 事業対策官

森と湖に親しむ旬間

7/21~31

宍道湖・中海とふれあいの時を